

＜北海道熊研究会報＞

第 27 号 2014 年 5 月 10 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

2013 年 11 月 5 日、UHB 大学主催で、「熊とは、そして、札幌の市街地に熊が出て来る本当の理由」と言う題で、門崎允昭が約 80 分間、道新ホールで 500 名程の聴衆に講演をした際の全文の、今回はその 6 回目として、会報 26 号に続き掲載致します。お読み下されば幸いです。

[14]＜越冬穴から出た直後の熊についてですが、＞

穴出後の熊は、日向の雪溶けた地所に行き、ザゼンソウ・フキトリ・イナズなどの青草や、前年のトングリやクマがある場所を記憶していて、そこに行きそれらを食べます。勿論鳥獣や魚類が手に入ればそれらも食べます。これについても、坪田教授は、2013 年の 4 月 18 日の道新に、穴から出た熊は胃腸が不活発で、柔らかい草や新芽を好むと、新聞にコメントしていましたが、穴から出て間もない熊もトングリやクマ等堅いものも大いに食べますから、それは間違いで、これも熊の生態をよく識らない言葉です。

[15]＜発情期＞

発情期は 5 月下旬から 7 月上旬で、雄はこの間だけ精子が多量に生産され、雌もこの間だけ排卵する。発情した熊は発情期に 1～2 週間番いで行動し、発情が終了すると、もはや一緒に行動することはない。したがって、出産と子の養育はもっぱら母獣が単独で行う。熊の年齢は歯のセメント層に樹木に見られるような年輪が毎年出来ますので、それを算えることで分かります。発情の最若年齢は 3 歳ですが、多くは 4～5 歳。そして、雌雄とも 30 歳近くまで発情します。私の友人の小田島護君が、大雪山で観察していたヒグマの K 子は、30 歳で最後の子 1 頭を出産し、翌年 31 歳でその子を自立させ、その年の晩秋 K 子が 14 年間毎年 7 月～10 月に生活していた高原沼地域で 31 歳(年輪数から)で天寿を終えました。北海道での、野生熊の最高齢は 1980 年に幌延町で獲った雌の 34 歳です。

[16] 北海道での熊の 身体の大きさですが、雄の成獣の体長で、最大例は体長 2.4m(立ち上がると目の高さは 3 m ほどになります)、体重 400kg です。雌の場合は最大で体長 1.9m、(立ち上がると目の高さは 2.5m ほどになります) 体重 160kg です。食物は雑食性で、私の調査では、草類 70 数種類、木の実 40 数種類で、他に色々な動物類を食べます。虫類は以外に少なく、蟻類・蜂類・黄金虫の幼虫しか食べません。時に鹿を襲ったり、熊同士闘争し共食いすることも

あります。主要な休息地や越冬地は縄張りとして、他の個体の侵入を嫌いますが、他の行動圏は互いに遭遇しないように使用します。先に熊が居る場所に、その後から来た熊は、時には先に来ている熊の数に近くまで徐々に近づき、許可を得るような素振りをして、争いを避け共用します。北海道でこのような熊の光景が見られるのは、大雪山の高原沼の西斜面と、知床のルシャ川とテッパンベツ川一帯でしか見られません。また、3～4時間に熊が1頭ないし母子1組が見られる場所は、北海道広と言えども、知床のルシャ川とテッパンベツ川一帯しかありません。

[17] さて、熊は水芭蕉を特に好んで食べるように、昔から言われていますがこれは全く誤りです。比較の問題ですが、ヒグマが好んで食べるのは同じサトイモ科でしかもミズバショウと混生していることも多いザゼンソウの方です。ただし、ザゼンソウは寒冷地にはありませんから、ザゼンソウが生えて居ない大雪山や知床五湖辺りでは、ザゼンソウの代わりにミズバショウを食べています。6月になりますと、熊は高山にハクホウソウ、チマニジソ、ハイマツ・タカネナナカマド・ウラジロナナカマドなど草や木の実を食べに上がってきます。低平地から山地の森林帯にかけて別種の街路樹としても植えられている、ナナカマド *S. commixta* が在りますが、この実は、ヒグマは希にしか食べない。ヒグマは異臭プンプンたる腐肉も食べる。したがってヒグマは自然の清掃者とも言えます。

[18] 2013 年の 9 月 20 日の新聞各紙、道新は 9/20 によりますと、今年は全道的にドングリの一種であるミズナラが凶作で、熊の出没が増えると、道が予想との記事が出ましたが、けっして凶作ではありません。北海道のドングリ類には(ミズナラ・カワ・コナ・ブナの 4 種)が該当しますが決して凶作ではない。私は自宅側の公園で、毎年ミズナラのドングリの成り具合を調査していますが、決して凶作ではない。また各地で熊の調査をしています、熊の糞にドングリが含まれているのが、今年も各地で見られています。

[19] 熊は作物では甜菜・南瓜がチャ・水瓜スイカなど甘い農作物・果実蜂蜜が特に好きですが、稲・麦・蕎麦がなど甘くないものも食べます。そして時には、人や家畜を襲い食べることもあります。

[20] 次ぎに熊による人身事故について、お話しします

私は 1970 年～2013 年に至るまで 44 年間、熊による人身事故を検証していますが、熊が人を「襲う原因は、3 大原因として、最も多い物で、人を排除するために襲う場合」で、具体的な原因は、不意に人に出会った場合、子を保護する場合、人の存在が障害となる場合など、また撃ち損じた猟師を襲う場合等です。

第 2 の原因は 満 2 歳代の熊が、山菜採り出来る山の中で、戯れ苛立ちから人にちょっかい出して来ることがあります。

第 3 の原因は、人を食べる目的で襲う場合で、熊は人を襲い、食べる場合があります。その場合、その場で食べることもあるし、食わずに自分が安心できる場所に人を引きずって行って、枯れ葉や土等を遺体に被せることもあります。**本州以南に居る「月輪熊」は人を食べる目的で、襲うことは無いようです。**

(了)